

①

Q まちづくり協議会について、町会が維持できない状況が見られる中で、具体的にどのような組織をイメージしているのか。また、出張所の機能見直しについて、西出張所については、サンライトホールの老朽化対応と併せ、どのようなことを考えているのか。また、財政見直しについて、一般財源以外の収入もあるため、単純に資料のようにはならないと思うが、基本計画にはどの程度の資料を添付するのか。

A（市民生活部長）

まちづくり協議会については、今後具体的に検討していきますが、水谷東や南畑地域を参考に、町会にもその一翼を担っていただきながら、地域でできることは地域でやっていただくような仕組みづくりをイメージしています。

また、西出張所は立地条件がよく、今後、さらに利便性の高い出張所にしていきたいと考えています。サンライトホールの老朽化対策については、必要に応じて実施します。

A（政策財務課長）

財政見直しは、第4次基本構想・基本計画にも掲載しています。今後の国の動向が不透明な面もありますが、ある程度確実な収入・支出を見込んで推計し、第5次基本構想・基本計画に掲載したいと考えています。

②

Q 基本計画については、新規事業か継続事業か把握するため、これまでの基本構想・基本計画における取組みと時系列で比較する必要がある。また、財源についても、事業ごとに支出計画を立て、第5次基本構想の計画期間中にどれくらいかかるか把握する必要がある。そういった経緯や財源見込みがないと実現性に乏しく、基本計画の意味がない。

また、基本構想策定の今後の進め方について、この説明会で終わりなのか、議会に諮るのか。

さらに、本日の資料も細かすぎてわからないため、一旦持ち帰って意見を言うようにするなどの配慮が必要である。

A（政策財務課長）

基本計画に示された事業は、財政状況を考慮して実施計画を毎年策定し、実施していきます。また、今後においては、説明会やパブリックコメントの意見を踏まえて修正し、12月議会にかける予定です。

**A（副市長）**

ご指摘の点は、今後活かしていきます。

これまでの基本構想における実績の比較については、第1次基本構想からとすると約40年と長いことから、今回の策定にあたっては、第4次基本構想における実績と比較し、それを踏まえて検討してきました。また、事業が新規か継続かという点についてはわかりにくいため、改善します。

財源については、向こう10年間の財政見通しは難しいですが、最低でも3年間の財政見通しはしていきたいと考えています。

③

**Q** 窓口サービスの改善について、以前から手話通訳の派遣を要望してきたが、ここに含まれているのか。

**A（市民生活部長）**

窓口サービスの改善の一環として考えていきます。

④

**Q** 公民館については、老朽化が進んでいるため、今後建て替えが必要になるのではないか。その際、財源の問題から、鶴瀬西公民館から鶴瀬西交流センターに名称変更したように、公民館の名称が変わってしまうのが心配である。

**A（総務担当教育部長）**

補助金を受けて建設しているので、公民館以外の施設にすると用途違反ということで補助金返還の問題がでてきます。公民館の老朽化については、建て替えではなく、改修で対応していきます。また、鶴瀬西交流センターについては、社会教育事業を行っており、公民館という名称でないからといって、社会教育ができないという訳ではありません。

⑤

**Q** 鶴瀬駅は市の顔であるにもかかわらず、駅前に畑が残っている点が他の東上線沿線の自治体と違う。逆に市役所は田んぼの中にあるため、駅前の畑に大手企業との複合施設を建設し、市役所を持ってきてはどうか。また、鶴瀬駅のそばの踏切は貧弱で危険なため、アンダーやオーバーパスにしてはどうか。また、財政が悪化しているにもかかわらず公務員の給料は変わらないことから、それらの財源として、国庫補助や起債のほか、市役所職員の給料を3割カットしてはどうか。

**A（まちづくり環境部長）**

鶴瀬駅前の畑は、区画整理地内であり、道路を通す計画になっていて、所有者もいます。駅前でも一定の農地を保存しながら、まちづくりを進める必要があると考えま

す。また、踏切については、区画整理を推進していく中で議論したことがあります。踏切を通る道路沿いには家が建っているため、一定の幅員を確保するのは難しいと考えます。

**A（総合政策部副部長）**

職員の給料は、人事院勧告に沿って減額しています。併せて、職員の削減を計画的に進めています。

**A（市長）**

財政悪化の件について、以前よりも借金を約100億円、職員も200人以上減らしており、私は悪化しているとは思っていません。私が市長に就任してからでも5億円削減し、それを各施策に配分してきました。ただ、自主財源が乏しいことには変わりありません。また、鶴瀬駅そばの踏切については、歩道が狭くて危ないと認識しており、南側の踏切については、県道の管理者である県に話をしています。

⑥

**Q** 死亡率1位のがん対策はあるが、2位の脳疾患、3位の心疾患の対策がないため、基本健診を復活して欲しい。メタボ対策は中でもできるのではないか。

**A（健康福祉部副部長）**

法改正に伴い、基本健診が廃止され、メタボ対策に特化されたことから、市としては、がん検診に力を入れてきた経緯があります。ご指摘の点につきましては、今後、医師会と協議したいと考えます。

⑦

**Q** 地産地消について、鶴瀬駅前の商店街が寂れているため、行政が旗を振って、進めて欲しい。

**A（まちづくり環境部長）**

現在、農業生産者、商工業者とともに、地産地消に関する意見交換会を行い、計画づくりを進めています。その中で、試行的にアンテナショップを市役所内に作り、その後、直売所を広げていきたいと考えています。

⑧

**Q** 窓口サービスの改善について、一時保育などサンライトホールの有効活用を図るべきである。出張所の時間延長では窓口サービスの改善とは言えない。庁内横断的に検討して欲しい。また、市役所内にアンテナショップを作っても、高齢者は行かないため、サンライトホールを活用した方がよい。

**A（市民生活部長）**

出張所の見直しは現在検討委員会で検討していますが、サンライトホールを一時保育のために使うには狭いと考えます。また、サンライトホールは1万人の利用者がいるため、簡単に転用するわけにはいかないとも思います。いずれにしても、検討委員会において検討していきます。

⑨

**Q** 鶴瀬西の団地建替え地区内にあるまちづくり用地の進捗状況はどうなっているか。

**A（まちづくり環境部長）**

まちづくり用地は、鶴瀬第2団地建替え地区内に3ヶ所あり、都市再生機構が所有しています。現時点では、線路寄りの用地は住宅用地として売却すると聞いていますが、それ以外の用地については現在検討中とのことであり、市としては、基本計画に示しているものを誘致するよう都市再生機構に依頼しています。

⑩

**Q** 地域包括支援センターについて、担当職員が少ないため、高齢者の実態把握などやりたいことがあってもできない状況であると聞いた。必要なところは人員を増やすべきではないか。

**A（健康福祉部副部長）**

現在は、4圏域のうち3圏域を市役所で所管していますが、来年度から1圏域を委託するため、職員の負担が多少軽減されると考えます。

⑪

**Q** 鶴瀬駅周辺の道路について、すぐにできることが3つある。

1点目。鶴瀬駅東口側の庄屋の前にごみ集積所があり、常に路上に出ている。環境課や警察にも話をしたが、改善されない。

2点目。鶴瀬駅東口周辺の道路について、ネオン看板が道路上に置いてあり、警察にも話をしたが、改善されない。また、看板が、道路上空にはみ出しており、指導して欲しい。

3点目。鶴瀬駅東口から梅田印刷方面（みずほ台方面）へ向かう道路の歩道の真ん中に道路標示があり、歩行の妨げになるため、指導して欲しい。警察と市の話し合いのできるのではないか。

**A（まちづくり環境部長）**

現場を確認します。